

研究課題名「地域在住高齢者の感覚処理機能の変化と対処方略
および支援の実態に関する質的研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

本研究の対象者は、地域に在住する65歳以上の方、および地域で支援を行う訪問看護ステーションの看護師等の支援者の方で、本研究に参加の同意をされた方です。

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：

近年、高齢者における感覚刺激に対する自身の反応の変化が注目されています。感覚刺激に対する自身の反応とは、神経系が外部からの感覚情報を受け取り、それを調整・統合・整理する能力のことを指し、感覚処理と呼ばれています。このような感覚処理機能は加齢により変化が生じ、日常生活動作や社会参加に支障をきたす可能性が示唆されています。そこで本研究では、地域に在住する65歳以上の方々が認識している自身の感覚処理機能の変化と、それに対してどのように対処しているのかを明らかにするとともに、訪問看護師など地域の支援者が感覚処理機能の変化に対してどのような支援を行っているのかを明らかにしたいと考えております。これらを明らかにすることで、加齢に伴う感覚処理機能の変化をもつ高齢者への支援を検討する際の一助となると考えています。また、感覚処理機能の変化に関する研究を行うことは、認知症を有す高齢者の感覚処理機能の変化を捉えることや、認知症における行動・心理症状への対応を検討するための基盤となる可能性も期待できます。

研究方法：

本研究では、研究者との面接をプライバシーが確保された個室で30分程度させていただきます。面接内容は参加者の同意を得て、録音およびメモを取らせていただきます。面接では、感覚処理機能の変化についてお尋ねします。地域在住の65歳以上の方は面接の後に、質問紙への記入などを20分程度実施していただきます。録音した音声データの内容については、逐語録を作成後に削除いたします。その後、氏名が記載された同意書と逐語録データを結び付ける対応表を作成し、これらは別々の施錠可能な棚に分けて保管いたします。取得した情報は外付けハードディスクに保存し、各ファイルにはパスワードを設定して管理します。

研究期間：実施承認日 ～ （西暦）2028年3月31日

3. 研究に用いる情報の種類

- ・ 地域に在住する 65 歳以上の方
年齢、性別、日常生活の中で自身が感じている感覚処理機能の変化の内容、およびそれを認識した場面や状況等
- ・ 訪問看護ステーションの看護師等の支援者
年齢、性別、経験年数、高齢者への支援の中で感覚処理機能の変化に気づいた場面、および支援内容等

4. 外部への情報の提供

共同研究施設である岐阜県立看護大学には、仮名加工処理を施した逐語録ファイル（仮名加工情報）を提供します。その方法として、まず、逐語録ファイルにパスワードをつけて記憶媒体（USB メモリー）に保存します。そして、提出元の研究者が、共同研究施設に直接持参し、共同研究者本人に手渡しします。この受け渡しについては、日時・場所・受渡方法を記録しておきます。また、氏名の記載のある同意書と対応表は、共同研究施設へは提供しません。

5. 研究組織

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻
岐阜県立看護大学看護学部

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者・研究代表者：

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護科学 准教授・星野純子

問い合わせ先の住所：〒461-8673 愛知県名古屋市東区大幸南 1-1-20

電話/ファックス番号：052-719-3150